岐阜県美濃加茂市・旧櫻井邸庭園の改修計画

造園緑化コース

1．はじめに

私は、高校と現在の国際園芸アカデミーを含め、5 年間造園について学んできた。自分なりに「造園」とは、「癒し」と「時を現在に伝える（残す)」ものであると考え、「癒し」と「時」の 2 つの要素を計画地である旧櫻井邸と絡めながら、庭園設計を通して表現する。

２．研究の目的

岐阜県美濃加茂市伊深町に位置する築 100 年の古民家「旧櫻井邸」をリノベーションし、木工旋盤のワークショップを行っているツバキラボの存在を知った。旧櫻井邸の改修工事が進んでおり、庭も改修したいということから、旧櫻井邸庭園の一画の計画・設計を目的とした。

３．研究の方法

今回は、2023 年 11 月に行った現地調査やツバキラボへのヒアリングの結果、既存の庭の課題の改善や要望などを取り入れ、旧櫻井邸、美濃加茂市伊深町の歴史を参考にし、現況、周辺環境調査、ゾーニング、設計の順に計画していく。

また、はじめにでも述べたように自分が造園の定義とする「癒し」と「時」の要素を含めた庭園とする。

４．計画・設計および考察

（１）旧櫻井邸現地調査・ヒアリングで得た課題と要望

課題

①計画を行う区画の選定

②既存の樹木の活用方法

要望

①木工旋盤ワークショップとの繋がり

②体験工房である蔵からの眺めを良くしてほしい（写真－1）

写真－1　調査時の蔵からの眺め

以上、課題、要望を現地調査とヒアリングにて明確になった。

旧櫻井邸庭園は、前庭、蔵の前の庭（以下、蔵前の庭とする。)、裏庭の 3 つに分けることができる。全体のゾーニングを行った後、「蔵からの眺めを良く」という要望から、蔵前の庭に絞って今回の計画地とした。

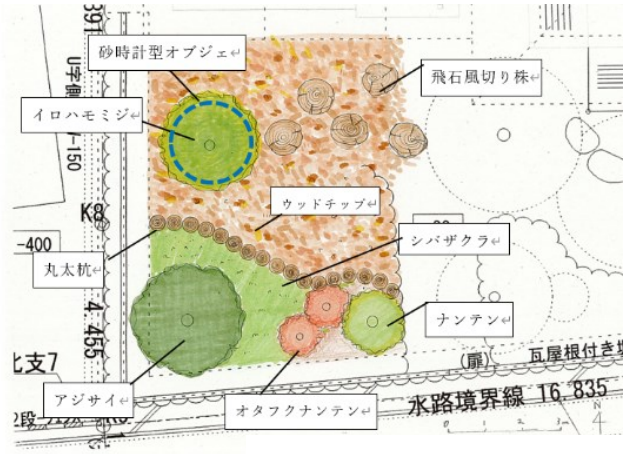
既存樹木の活用方法は、樹木調査を行った結果、生育状態が悪い樹木が複数確認できたため、全て伐採し新しい植栽を行うことにした。また、木工ワークショップとの繋がりについては木工製品や資材を用いて「木」を強く連想させるようなデザインにする。

【テーマ】

<u>樹と時の温もり</u>

【コンセプト】

蔵が木工工房として利用されていることから「樹の魅力・温もり」と 100 年もの歴史を重ねてきた伝統的な建物「櫻井邸」で流れた「時間」を感じられる庭園空間（図－1）（図－2）



図－1　平面図

図－2　イメージスケッチ

【使用した植栽】

イロハモミジ、アジサイ、ナンテン、オタフクナンテン、シバザクラ

【その他】

砂時計型オブジェ

蔵前の庭一番の魅力であり、アイストップともなる色んな「時」を表現したオブジェである。その中には空間があり、イロハモミジが植栽されている。旧櫻井邸でこれまで流れてきた 100 年もの時間や思い出、これからこの蔵前の庭で流れていく時間とこれまで流れてきた歴史が廃ることなく、庭を計画し新しくつくることで「再生」する。

飛石風切り株

前庭が日本庭園の雰囲気があったため、蔵前の庭と前庭とで空間の繋がりを意識して日本庭園に用いられる「飛石」の千鳥打ちを、「樹の温もり」を感じられる切り株で表現した。

他にも、丸太杭やウッドチップなどを取り入れた。

木工工房との繋がりや、テーマである「樹の温もり」を表現するため、植栽以外のオブジェや資材は全て木材を使用している。

（２）考察

今回、旧櫻井邸庭園の設計をし、庭のあり方や価値について改めて考えることができた。庭としての見た目の美しさ、どのように活用していくのか、工房を運営する中で利便性を考えるなど「用」と「景」の割合が重要になる計画だった。

「樹」と「時」というコンセプトと、自分が考える造園の定義をうまく絡ませながら、自由なデザインをすることができたが、仕事として設計を行う場合、細かい部分の設計はもちろん、どれだけ費用が掛かるか、いくらデザイン性・利便性に優れていてもお金を出せるものなのか、「お金が発生する設計」がどれだけ難しいかを実感した。